

令和5年10月19日付、全空連発299号  
空手競技規定の運用について（通知）別紙

公益財団法人全日本空手道連盟では、競技規定を以下のとおり運用する。

【組手競技】

1. 競技規定 14 ページ

- 3.7.6 チームメンバー又はコーチが、ラウンド前に書面による通知なしにチームの構成又は対戦順を変更した場合、そのチームは**失格**となる。  
(運用) 失格ではなく、そのチームを反則とする。

2. 競技規定 17 ページ

4.2 審判員の配置とパネルの割り当て

- (運用) 競技規定では、抽選システムにより審判員の配置とパネルの割り当てをすることになっているが、抽選システムに関する個所を削除し、4.2.1 と 4.2.3 を以下のとおり読み替える。4.2.2 は競技規定どおりとする。

4.2.1 予選ラウンドでは、大会審判長並びに副審判長は、審判会議に出席した審判員の中から各コートの審判員リストを作成する。

4.2.3 メダル獲得戦の場合、コート主任は、予選ラウンドの最後の試合が終了した後、自分のコートの審判員リストを大会審判長に提出する。大会審判長はリストを承認後、審判団を編成する。

3. 競技規定 26 ページ

10.3.4 **失格**の可能性がある場合、主審は決定を発表する前に、1名以上の副審を呼び、簡単な協議を行うことができる（集合）。

- (運用) 失格だけでなく、反則の可能性もある場合も副審を集合することができる。

4. 競技規定 32 ページ

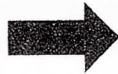
12.2.5 **個人戦**において同点で先取がない場合、下記の基準（適用順）に基づき勝敗を決定する。

- a) 1本の多い方
- b) 技ありの多い方

- (運用) 個人戦だけでなく、いずれの試合（団体戦、個人戦総当たり戦）も同様に、下記の基準（適用順）に基づき勝敗を決定する。

## 組手

カテゴリー1



一つに

カテゴリー2

ウォーニング、ペナルティ 副審の同意はいらない。但し「失格」は副審を呼ぶ。

### P13 チームの競技者数

男子チームは、最初の1ラウンドには 5 名が出場しなければならない。次のラウンドは最低3名競技者で出場することができる。

女子チームは、最初の1ラウンドには 3 名が出場しなければならない。次のラウンドは最低 2 名競技者で出場することができる。

### P23 得点

蹴り技得点部位から 5 cm以内、手技では 2cm以内、止めれば得点。軽い接触(スキンタッチ)は許される。

14 歳から15歳(カデット)並びに 14 歳未満 蹴り技は攻撃部位から10cm以内手技では 5cm以内

16歳から17歳(ジュニア)はスキンタッチが許される

### P41 主審はウォーニング、ペナルティ、合図、命令等全て見る

#### 宣告の仕方

赤(青)を発声、補助動作(当てる、押す、掴む、場外、装い等全て)、手を下す、注意(指 1.2.3)

反則注意、反則

失格は、副審を集合させてから宣告

全ての失格

ドクターストップ

テンセコンド成立

直接反則

ファールカップを未着用が発覚

続行不可能→無防備→棄権

続行可能→無防備→失格

副審は得点のみ P41 主審の権限 副審の権限

監査は「笛」のみ「旗」は持たない P42

監査は、進行中の試合を監査することにより、コート主任を補佐する。主審又は副審の決定が競技規定に従っていない場合、監査は直ちに笛を吹いて合図する。

監査はルール違反が認められた場合、試合を止めて主審に是正を求める。この場合主審が監査に近づく。

審判は、プロ意識、完璧な判断、任務と理解、<sup>モロ</sup>為すべきことは積極的に関与する。

歩きながら、補助動作等やらない

手のひらを正面に向ける→勝者と1本は同じ

上段蹴りで得点した後、自身が倒れた場合、得点にしない。

上段蹴りで得点した後、相手に押され倒された、得点とウォーニング



審判は見極める。

副審1人赤(青)1本、もう1人の副審赤(青)有効1本



高いほうを取る

副審1人赤(青)1本、もう2人の副審赤(青)有効2本



低いほうを取る→多数決

副審1人赤(青)有効1本、もう2人の副審青(赤)有効2本→赤は旗をすぐ戻す

同点判定は

P32 個人戦において同点で先取がない場合

- a) 1本の多い競技者
- b) 技ありの多い競技者

同数の場合、主審は安全域に出る、副審4人で行う。

4-0決定

3-1決定

2-2 同点は、主審の判断で勝者を決める。

「つづけて」と「不活動」 最初15秒間と最後15秒間は不活動を科してはならない。

不活動は得点、又は先取でリードしている競技者に与えることはできない。

両方に与える場合 一人ずつ行う

P26 装い

負傷を装った場合、どんなに軽いものであっても、最低限注意のウォーニングが科せられる。明らかに装った場合は、反則注意。よろめく、床にたおれる、立ち上がってまた倒れる等深刻な装いは、直接失格。

P25「わかれて」・「つづけて」

そんなに厳しく取り過ぎない

接近戦のケースをも認識する

競技性と戦術性を理解する

告げるときは大きく、明確に「わかれて」・「つづけて」を告げる場合、正しい距離と位置でおこなう

「わかれて」のあと手を降ろすことなく「つづけて」を発声する

競技者がわかるまで手の平を離し、その後両手を合わせ「つづけて」の合図をおこなう。

主審が「わかれて」を告げたとき競技者が得点技を出した、そのとき副審は得点の旗表示をしてはいけない。

もし旗が出た場合、主審は人差し指を唇にあて取り消しのジェスチャー。

競技者が技を出した場合、主審はヤメを掛け「注意」を与える。コンタクトがあればもう一度「注意」の両方を与える。

「わかれて-つづけて」は競技時間の開始から終了するまでの間、使用することができる。(15秒間を含む全競技時間)

「つづけて」&「不活動」は 15 秒間で使用することはできない。

#### P38 ビデオレビュー

コーチは競技者の得点を確認した際に VR を要求する。

- 14.5 競技者がコーチに VR を要求する場合は、試合進行を妨げない程度に、合図は控えめにしなければならない。
- 14.9 VR の要求により試合が中断される前の 6 秒間が常に評価される。後から極まった技は、対象としない。
- 14.10 VR の結果、1 回以上得点していたことが判明した場合は、最も高い得点が与えられる。
- 14.11 両方のコーチが同時に VR を要求した場合、VR S 先に得点したとみなされる競技者のみに得点を与える。唯一の例外は、同時に得点技があった場合、両競技者に得点が与えられる。
- 14.12 一方のコーチが VR カードを示し、もう一方のコーチが同時に要求する場合、2番目に要求したコーチは VR 開始前にカードをあげなければならない。VR は主審がジェスチャーした時点で開始される。
- 14.6 副審が高い方の得点技に対して、低い方の得点を与えたとコーチが思った場合、コーチは VR を要求することはできない。

以上

2023.5.20 ルール改正

静岡県空手道連盟

競技委員長 岩瀬 作成